

令和8年7月 12 日(日)《午前》 「第 13 期Bコース成果報告会及び帰国オリエンテーション」

第 13 期Bコース成果報告会

アメリカ・カナダへの留学を終えて帰国した 13 期 B コース研修生が、約 2 年間に渡り、取り組んできたゼミナール研究の成果を班ごとに発表しました。研修生たちは、研究テーマの設定や研究計画の策定に約半年を費やした後、約 1 年間の留学中に現地での調査活動を行い、その成果を研究に反映させました。こうしてまとめられた研究内容は非常に充実したものでした。

研究テーマには、「日本の移民受け入れについて～カナダの移民受け入れ政策を参考に～」、「日米の先端技術でエチオピアの農業被害の解決に挑む」、「地域を活性化する観光業の在り方」、「クマと人間の共存」、「日本の医師不足解決策～女性医師の活躍可能性から探る～」、「伝統産業の再興～伝統をつないでいく方法を世界から考える～」、「食と環境を守る食品ロス削減」、「海洋プラスチック問題の解決策」、「植物性タンパク質食品の魅力と普及策」などがあり、現代社会が直面するさまざまな課題の解決に向けた提言がなされました。

いずれの研究も、日本での文献研究や所属校におけるアンケート調査、自治体等へのインタビュー調査に加え、留学先での現地調査の成果を取り入れながら分析・考察を行ったものであり、非常に価値の高い研究成果となっていました。また、研修生たちは留学を通して培ったプレゼンテーション能力を存分に発揮し、自信に満ちた堂々とした発表を披露しました。発表からは、海外留学を通じた大きな成長と学びの成果が十分にうかがえる、充実した発表会となりました。

帰国オリエンテーション

成果報告会を終えた研修生たちは、留学を通して得た学びを今後の人生や社会との関わりの中でどのように生かしていくのかを考え、未来への行動につなげるための帰国オリエンテーションに参加しました。



ワークショップ①では、研修生が小グループに分かれ、留学前と比較して自分自身に生じた変化や成長を言葉にして共有しました。次世代リーダー育成道場での経験を振り返りながら、そこで得た価値や学びを表現することで、互いの成長を確認し合う機会となりました。

続くワークショップ②では、これまでの経験を通して得た価値観を基に、自分がこれから大切にしたい「ミッション（使命）」について考えました。そして、その実現に向けてどのような「アクション（行動）」を起こしていくべきかを話し合い、具体的な将来像を描きました。

こうした活動を通して、研修生たちは「次世代を担うリーダー」としての自覚をより一層深めるとともに、それぞれが未来に向けて新たな一歩を踏み出すための決意を固めました。